



## 1. 台湾米山学友会が総会を開催

2020年12月5日、台湾米山学友会の年次総会が台北市内で開催され、学友42人のほか、同学友会が支援する日本人奨学生など、総勢50人が集まりました。今回初の試みとしてYouTubeでのライブ配信が行われ、日本在住の米山学友やロータリアンらが見守るなか、阮偉倫さんの巧みな司会で式典がスタートしました。

まず、郭錦堂理事長（1984-86／相模原中RC／台中文心RC創立会長）の挨拶に続き、当会齋藤直美理事長と柚木裕子事務局長、および、韓国・タイ・関西学友会の各会長と、台湾



出身で元関西学友会会長の何玉翠さん<sup>ホーユーツイ</sup>から寄せられたビデオメッセージが披露されました。

寄付贈呈セレモニーでは、学友3人と台中文心RCが学友会へ寄付をし、感謝状が贈られました。同学友会では2009年から、台湾の大学・大学院で学ぶ日本人留学生を支援しつづけています。今年度の奨学生6人が会場の中央に立ち、それぞれ流暢な中国語で自己紹介のプレゼンテーションを行い、拍手喝采を受けました。

また、この日は第一期生をはじめとする卒業生も来場し、米山学友との旧交を温めました。

## 2. 上海で米山学友会総会を開催

中国・上海を拠点とする米山学友会の年次総会が1月16日、上海市内で開かれ、計56人が集まったほか、オンラインで約20人が参加しました。

「同心協力、共創未来」をテーマとした今回の総会では、肖慧潔<sup>ジョウウェイケツ</sup>会長（2008-09／東京白金RC、現：東京米山ロータリーEクラブ2750創立会員）の挨拶につき、当会齋藤直美理事長、柚木裕子事務局長からのビデオメッセージが披露されました。活動・会計報告の後、恒例の表彰式に移りました。今年は、7年連続で会費を納入している学友や、新型コロナウイルス感染拡大時において学友会の支援活動に力を発揮した学友などが選出されました。また、特別賞に輝いたのは学友の長女です。同学友会では、2015年から支援している甘粛省の小学校へのメッセージ集を制作してお



り、そこにぜひ入れてほしいと真っ先に絵を描いて送ってくれたことが受賞理由です。学友会の奉仕活動は次世代の子どもたちにも広がっています。

今年は残念ながら日本からの参加はあ

りませんでした。日本のロータリー100周年バッジを胸に付けた学友も多くみられました。当日ゲストとして参加し、長年同学友会を見守ってきた上海RCの山根基宏会員は、「私は最近、ロータリーとは“何か行動を起こしたい人たちのためのプラットフォーム”だと感じている。米山学友の皆さんは、国内の子どもの教育支援をしている。寄付を募れば、たった半日で目標金額に到達する。活動にアイデアがあり、学び合いの場もある。これはまさに、ロータリー精神の実践そのもの」と、語りました。

### 3. 寄付金速報 — 2021 年はやや厳しいスタート —

1 月までの寄付金は前年同期と比べて 1.1% 減(普通寄付金:1.0%減、特別寄付金:1.1%減)、約 1,100 万円の減少となりました。1 月に入金された単月寄付額は直近 5 年間で最も低く、また、7~1 月の累計寄付額においても 2016 年度に次いで低い寄付額でした。緊急事態宣言が再

発出された自治体では例会を休会するクラブが多く、これが大きく影響していると考えられます。大変厳しい状況ではありますが、皆さまにおかれましてはまずは健康にご留意いただき、引き続き当事業へのご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

### 4. 米山学友を中心とする衛星クラブが誕生！

第 2570 地区(埼玉県)で米山学友を中心とする衛星クラブ、和光 21 幸魂<sup>さきたま</sup>ロータリー衛星クラブ(スポンサークラブ:和光 RC)が 12 月 21 日付で認証を受け、誕生しました。

衛星クラブとは既存のクラブの中に作られるクラブで、8 人の会員で結成が可能。国内には現在 23 の衛星クラブがあります。衛星クラブ会員はスポンサークラブの正会員ですが、独立して例会を開き、細則や理事会も独自のものとなります。

和光 21 幸魂ロータリー衛星クラブでは創立会員 9 人のうち 6 人が米山学友で、創立議長は同地区米山学友会会長も務める周大亮<sup>シムウダイリョウ</sup>さん



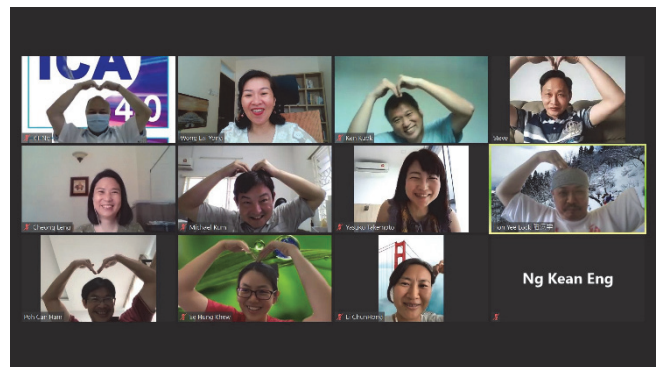
設立に向け Zoom を使って真剣議論

(2011-13/秩父 RC)、幹事は陳伊涵<sup>チンイハン</sup>さん(2016-18/富士見 RC)です。クラブ名の幸魂は、和光市に掛かる埼玉有数の橋、幸魂大橋に由来しています。2 月 13 日の初例会は、緊急事態宣言下にあるため小規模で実施予定です。

都内でリラクゼーション事業などを展開する周議長は、新型コロナウイルスにより苦しい経営を余儀なくされています。しかしそれでも、「一番大変だった時期に奨学金をいただけたからこそ今の私がある。米山奨学金の醍醐味は、奨学期間が終わった後もつながり続けることができること。つながる形の一つとして、ロータリアンになる道もあるということを含め、後輩たちに自分の背中を見てほしい」と、話します。

### 5. マレーシア学友会がオンライン勉強会

マレーシア米山学友会では 1 月 24 日、Zoom による勉強会を開き、12 人が参加しました。テーマは、数年前から日本でも注目を集める製造業のデジタル化、「インダストリー 4.0」についてです。講師は、同学友会の副会長であり、この分野のコンサルタントを仕事としているンケアン エンさん(1998-2000/室蘭東 RC)。ンさんは、コロナで打撃を受けている国内製造業の改善に向けて奮闘中です。参加者からは積極的な質疑応答があり、事業協力のアイデアも出



るなど、有意義な勉強会となりました。

台湾国際大会がバーチャル開催となったことに伴い、2021 年 6 月 12 日に予定されていた「出会い in 台湾」は開催見合わせとなりました。今後の開催時期や場所については現在、台湾米山学友会や他の学友会で検討しています。決まり次第、お知らせします。